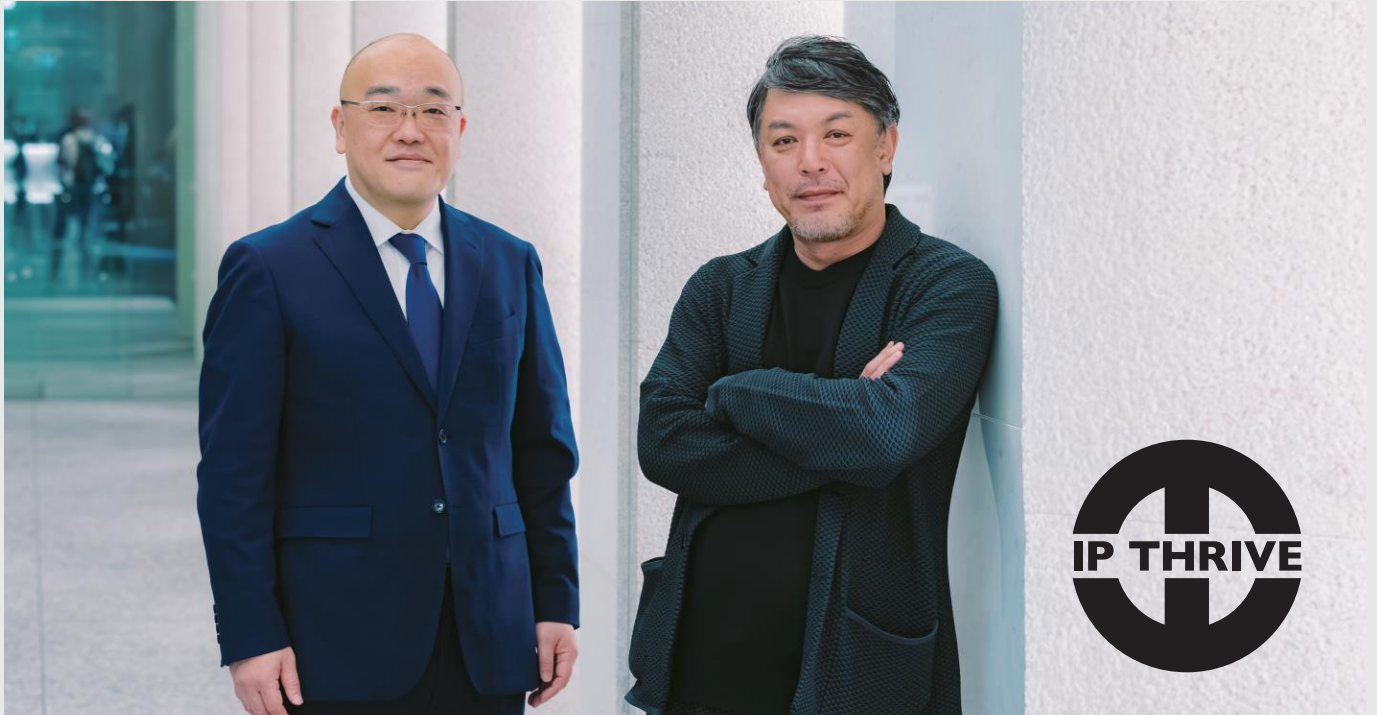


笑われる夢が、世界を変える。 未来を先取りする「舞台」としての万博。



SHINJI CHIBA

千葉慎二

TATSUYA IMOTO

井本達也

【PROFILE】経済産業省特許庁入庁後、中小企業庁、北海道経済産業局を経て現職。INPIT初の地域拠点 (INPIT-KANSAI) 開設以来、“地域貢献”を軸足に、関西圏の中小企業・スタートアップの課題解決、知的財産を活かした企業経営の実践支援に取り組んでいる。二児の父として、未来を創造する次世代を担う若者の育成にも精力的に活動中。大学生・高専生によるビジネスアイデアコンテストのアドバイザーや理系女子の社会進出・活躍に向けた各種セミナーの開催など、アントレプレナーシップや教育現場に知財の要素を取り入れた施策・企画を推進している。

【PROFILE】1977年生まれ。岡山県出身。アパレルメーカー、デザイン事務所、独立行政法人中小企業基盤整備機構等を経て、公益財団法人大阪市都市型産業振興センター(現:公益財団法人大阪産業局)入職。ファッション×デザイン×行政サービスの経験をベースに、スタートアップ支援事業プロデュースを中心に活動。2021年4月に“遊びをきっかけに躍動する経済”をコンセプトにsaturdays株式会社を設立。2024年4月より、経済産業省のGIRAFFES JAPANのアドバイザーを務める。趣味はクルーズ。

「IP THRIVE」の仕掛け人であるINPITの千葉慎二部長と、プロデュースを手掛けたsaturdays株式会社の井本達也氏。なぜ彼らは「学生」と「女性起業家」という異なる役者を一つの舞台に集めたのか。その根底にある、本気の挑戦に伴走する支援の形と、思い描く「理想の社会」について語り合った。

なぜ「学生」と「女性起業家」だったのか？

千葉: 万博は「未来を先取りする舞台」です。そしてその主役こそが、未来を想像する学生たちであり、自ら事業を起こし未来を切り開く女性起業家だと考えています。学生は既存の常識に縛られない「可能性」の塊であり、女性起業家は多様な生き方を体現する「ロールモデル」です。この二者が万博という世界の舞台で出会い、対話し、共創することを通じて、「次の時代のあたりまえ」を一足先に形にしてみたかったんです。

子供扱いしない、 本気の「共創」の場。

井本: 実際、学生たちのピッチは驚くほど熱量が高かったですね。私はメンターとして伴走しましたが、彼らを「子供扱い」せず、一人の起業家として本気でぶつかりました。どんなに優れた技術やアイデアでも、社会でどう共感を生むか、誰に届けるかが重要です。女性起業家の皆さんも同じで、自分の人生を自分でデザインし、課題に真正面から挑んできた。その場の誰もが「自分もやってみよう」という決意や「挑戦することが普通だ」という新しい価値観が生まれた瞬間でした。



笑われる夢が、 当たり前前に挑戦できる社会へ。

千葉:僕は、「やりたいこと」を笑われることなく、誰もが当たり前前に挑戦できる世の中をつくりたい。性別や年齢、肩書といった属性ではなく、「やりたいこと」と「生み出す価値」で評価される社会。学生が夢を口にしたら瞬間、一緒に面白がり、支え合う大人がいる。女性が無意識のバイアスや心ない言葉、ライフイベントで夢を縮小せず、自然に「やりたいこと」が選べる。そんな未来の舞台に、この万博をしたかったんです。万博での一日が、参加した若者や起業家、観客の皆さんにとって「未来は変えられる」と実感できるきっかけになるこ



未来の扉をひらく「鍵」としての知財。

井本: そのためには、「女性だから」「学生だから」と特別視することなく。支援する我々大人やサポーター側も本気でなければいけません。月並みな生ぬるい支援ではなく。挑戦者が社会や大企業と「対等」に渡り合うための強力なエビデンス、それが「知財」(知的財産)です。このイベントを経て、知財は単なる守りの壁ではなく、本気の挑戦を証明し、未来のゲートを開ける「パスポート」なんだと再認識しました。知財支援を担うINPITの役割はますます高まりますね。

千葉: おっしゃるとおりですね。我々は普段、知財を企業経営の安定と成長に活かすお手伝いをしています。特許などの権利取得を目指される方、様々な経営課題を知財で打開しようとされる方、知財を武器に社会課題の解決やイノベーションに挑戦される起業家の皆さん、日ごろからたくさんのご相談をお伺いしています。2017年に、ここ大阪・梅田に地域拠点を構え、関西の皆様身近な理解者として、知財戦略の立案や有効な活用手段など、より高度なアドバイスを提供できるよう体制を拡充して、たくさんの挑戦を支援してきました。大阪駅からも近いオフィスですので、本冊子をお読みいただき、何かを感じられた方は、ぜひお気軽にお越しください。

井本: INPITという公的な機関が、単なる手続きの窓口ではなく、挑戦者と同じ目線で本気で伴走してくれる。その事実自体が、起業家たちの背中を強く押してくれるはず。今回の万博という舞台での出会いが、これからどんな未来のビジネスや変化を生み出していくのか、本当に楽しみです。

千葉: そうですね。ここから生まれるのは、ビジネスプランだけではありません。「自分もやってみよう」という小さな決意、「あなたと一緒にできそうだ」という信頼、そして「挑戦することが普通だよ」という新しい価値観。この場所で交わされた熱が、知財という共通の鍵を通じて、5年後、10年後



知財は ここから。



【知財相談はこちらから】

INPIT-KANSAI (近畿統括本部) ホームページ
<https://www.inpit.go.jp/kinki/index.html>
TEL:06-6147-2811 MAIL:ip-js01@inpit.go.jp

[アクセス]

JR大阪駅から徒歩5分 グランフロント大阪ナレッジキャピタルタワーC 9

